

組織的な虚偽説明否定

2.13(4) 東電社長、調査は協力姿勢

国会招致

東京電力が「真し」と虚偽の説明をして、国会事故調査委員会による福島第一原発1号機の現地調査を妨げた問題で、東電の広瀬直己社長が11日、衆院予算委員会に参考人招致された。

広瀬社長は、虚偽説明は対国会事故調査委員会の意向に相違があったと説明し、組織としての関与を否定した。一方、とりわけめどとなった現地調査の表現

には協力姿勢を示した。虚偽説明をした玉井俊光企画部長(当時)については「広瀬社長は、原子力の専門家として、国会事故調査委員会の調査の担いを任せていた」と説明。その玉井氏が

「建屋の中は暗い」との思い込みのもと説明した」と述べ、特定の意図はないとの従来姿勢を貫いた。玉井氏に、会社組織として誰がどのような指示を出していたかに関しては「玉井氏は」上司は全く相談せず、説明に向かった」と答えた。

ただ、現地調査をめぐる国会事故調査への説明は「当然社長が関与すべきものだと風評している」との見解を示し、当時の東電首脳に対して

「建屋の中は暗い」との思い込みのもと説明した」と述べ、特定の意図はないとの従来姿勢を貫いた。玉井氏に、会社組織として誰がどのような指示を出していたかに関しては「玉井氏は」上司は全く相談せず、説明に向かった」と答えた。

ただ、現地調査をめぐる国会事故調査への説明は「当然社長が関与すべきものだと風評している」との見解を示し、当時の東電首脳に対して

「建屋の中は暗い」との思い込みのもと説明した」と述べ、特定の意図はないとの従来姿勢を貫いた。玉井氏に、会社組織として誰がどのような指示を出していたかに関しては「玉井氏は」上司は全く相談せず、説明に向かった」と答えた。

虚偽説明おわび
東京電力は11日夜、虚偽説明への釈明文を虚偽の内容があったとして、自社のホームページに「おわび」を掲載した。

東電は、国会事故調査側から明るさについて質問があったので説明したとして、「何らかの意図をもって虚偽の報告をした」とはな」と釈明した。

だが、国会事故調査側から質問があったところからは虚偽で、実際は、明るさをめぐるとは東電から切り出していた。(木村英昭)